

# 新年のご挨拶



社会福祉法人びわこ学園  
理事長 山崎 正策

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和7年の新春を健やかに迎えになられたこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今年びわこ学園は開設62年という、人間で言えば円熟した老年期にも差し掛かる年となりましたが、現実はそのも言ってもらえない状況です。

まずは、我々を取り巻く重症児者の医療と福祉の環境が大きく変化してきたことです。施設を入所利用されている方々が重度重症化され、また新たに入所利用される方も重度重症で、しかも低年齢の方々が増えてきたことです。いわゆる超重症児者と呼ばれる方々で、対応には様々な医療的ケアが必要になりますし、重介護の方々です。そういう方々をしっかりと受け止めていくためには、医療スタッフをさらに充実させ、レベルを上げると同時に、近隣の救急医療機関との連携をしっかりととっていく必要があります。また、医療的ケアのある重い障害を持っておられる方で、在宅でご家族と一緒に様々な支援を受けながら生活される方に対して、短期入所利用、リハビリ訓練、外来診療など、医療を持つ施設の機能を、さらに活かしていくことが求められてきています。

一方、福祉機能としても我々びわこ学園は、療育活動、暮らしに寄り添う支援を進め、本人一人一人の生活を組み立てていくことを目指して来ました。それがびわこ学園の大きな理念でもある、「この子らを世の光に」や「発達保障」につながるのだと考えてきていますが、今は医療的な処置にとられる時間が多く、また健康的にも不安定なため、以前のような利用者との活動での関わり時間が少なくなっているのも事実で、日々の安全性は保たれますが、お互いに安心できているかということ、それはなかなか難しくなり、

職員もジレンマに陥っているのではないかと思います。障害を持っておられる方々の専門医療福祉機関として、様々なニーズに答えていくことは、現在、様々な職種職員の確保の困難さと相まって、並大抵のものではありません。また職員の確保が先々改善してくるのかということ、それも期待できそうでもありません。

びわこ学園一丸となって頑張る、新しい知恵と工夫を出し合いながら乗り越えていく、等々シュプレヒコールは色々出せますが、具体的にはどうでしょうか。過去のびわこ学園が苦境時に乗り越えられてきたのは、やはり利用者から授かった力ではなかったでしょうか。

利用者と信頼関係を紡ぐために、職員がこちらから何の偏見も持たずに、一人の人間として相対して取り組んできたこと、そして、利用者の生活の質を担保していくために、職員同士の真摯な信頼関係を築いてきたことが、大きな原動力になってきたのではないかと思います。重い障害者の方々と長い療育実践の中で、見えてきたことのひとつはこのことであり、それがびわこ学園の一致団結という力に今後も繋がってほしいものです。

今後は、我々の社会構造も、また障害者医療福祉の環境も、大きく変わっていくことが予想されます。

びわこ学園は、今までに培ってきた基本理念に基づく支援の仕方、さらにすべての人との信頼関係作りの基本的なあり方などを真摯に学びながら、この子らとともに光り輝くことを目指して、様々な課題に挑戦していきたいと考えているところです。

皆様方のさらなるご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。